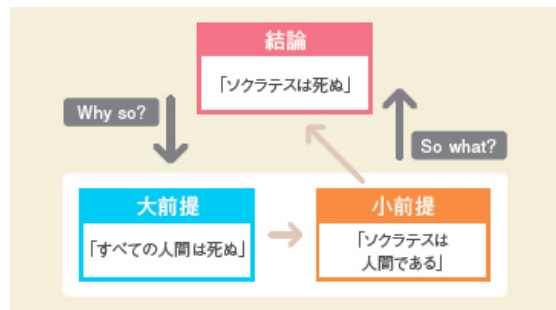


倫理講義 7 大陸合理論とモラリスト

得点源 合理論は、理性による演繹法！

- 1 **理性** (真と偽を区別する能力=判断能力) を重視。
- 2 **演繹法** …普遍的・客観的な真理から具体的・個別的な結論を導き出す。



得点源 デカルトは、方法的懐疑、コギト・エルゴ・スム、物心二元論、高邁な精神を理解しよう！

- 1 **良識** (ボン・サンス) = **理性は最も公平に分配されている**。
↓ どうして、迷ったり、間違ったりするの？
理性の働かせ方を知らないから
↓ どうすれば、理性を正しく働かせることができるの？
- 2 **方法的懐疑** …疑わしいものを除き、疑う余地のないものを導き出す方法
↓
- 3 **コギト・エルゴ・スム** (「われ思う、故にわれ在り」) = 明晰・判明な認識
あれこれ疑いを抱いている自分の存在は疑いえない = 普遍妥当な真理。
著書→『**方法序説**』

つまり、**良識**とは、**理性**のこと。デカルトのいう理性とは真と偽の区別能力で、判断能力といえる。良識=理性は、平等に分配されているのに、人間は間違ったり、迷ったりする。これは理性の使い方を知らないからであり、理性の多少によるものではない。

どうすれば、理性を正しく働かせ、疑う余地のない真理を発見することができるのか？そこで登場するのが、→ **方法的懐疑**。デカルトの専売特許だ！これは、疑う余地のあるものはすべて排除して、疑っても疑えないものを発見するための方法。方法的懐疑によって見いだされたものが→ **コギト・エルゴ・スム** (「**われ思う、故にわれ在り**」) という命題だ！

4 **物心二元論**

無限実体 = 神様
実体 精神の本質は思惟 (考えること) → 主体・主観
有限実体
↓

人間 物体の本質は延長 (拡がり) → 客体・客観

つまり、無限実体=神様と有限実体=人間とに分けた。人間という有限実体は、精神と物体からできている。精神とはあれこれ考えている私のことであり、自我とか、主体とか、主観ともいわれる。精神の本性は考えること。これを**思惟**という。次に物体とは、肉体のことと考えるとよい。物体や肉体といわれるものは、見たり、聞いたり、触れたりできるモノなのである。ある一定の**延長** (拡がり) がないといけない (つまり、触れられる面積が必要)。だから、物体の**本質**は**延長**といわれる。物体は、客体とか、客観ともいわれる。

5 **高邁な精神**

(1) 情念…肉体と深く結びついた愛・欲望・憎しみ・悲しみ・驚きのこと。

人間の心や行動を束縛する激しい感情である

(2) 高邁な精神…情念を完全に支配し、抑制する気高い精神 (自由意志) のこと。

得点源 パスカルは、「考える葦」と「中間者」、「繊細な精神」を理解しよう！

- 1 「**人間は考える葦である**」…人間の尊厳は、自らの卑小さを自覚し、考えることである。
 - 2 中間者 …人間は、有限と無限、悲惨と偉大の間を漂う不安定な存在。
 - 3 幾何学的精神 …物事を合理的・客観的に考え、分析して論理を展開する能力。
繊細の精神 …愛を原動力とし、複雑に絡み合った事柄の全体を一瞬で直感する能力。
つまり、
- ① モラリストの→ **パスカル** は、著書『パンセ』の中で、「人間は自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である」と語っている。西日本豪雨や東日本大震災などが起きるたびに、人間のちっぽけさ、自然の脅威・偉大を感じる。同時に「考える葦」なのだということも復興を見て感じる。このように、**人間の尊厳は「考えること」にある**。
 - ② パスカルによれば、→ **中間者** である人間が救済されるには、**キリスト教を信仰するしかない**。キリストへの信仰は、(原罪を負う人間の) 悲惨を知らずに神を知るという高慢、神を知らずに悲惨を知るという絶望の中間になる道だからである。
 - ③ パスカルは、デカルトの理性や「考えるわれ」は「**幾何学的精神**」に相当し、人生の諸問題で一番大切な「**繊細の精神**」について考えていないと批判した。

得点源 スピノザは、**神即自然**と「永遠の相のもとに」がキーワード！

・ **神即自然** = 汎神論という。

↓

この世は神が造りたもうもの。

故に、この世に存在するものはすべて神が宿っているという考え。

これを「**永遠の相のもとに**」と表現した。

ライブニッツ …『**モナド**論 (单子論)』で有名だ。物質的な広がりをもたない無数の

メナドが動き、関係し合う中で世界の調和は保たれているという考え（予定調和説）を説いた。

センター過去問演習

2012 本試—倫理・政経 デカルトの言葉

デカルトの言葉として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間の知識と力は合一する。
- ② 事物は永遠の相のもとに観想する。
- ③ この宇宙の沈黙は私を震撼させる。
- ④ 良識はこの世で最も平等に分配されている。

正解→①知と力からベーコンである。②永遠の相のもとにはスピノザ。③ 正解→④デカルトの言葉だ。

2009 本試—倫理 デカルト

精神に関するデカルトの見解として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 精神は、人間の根源にある欲望を制御する良心であり、教育を通じて社会の規範が内面化されたものである。
- ② 精神は、誠実なる神によって人間に与えられた良識であり、信仰に応じて各人に配分されているものである。
- ③ 精神は、思考を属性とする実体であり、延長を属性とする物体である身体から明確に区別されるものである。
- ④ 精神は、客観的に真理を追究しようとする高慢の心であり、情念との関わりをもたずに存在するものである。

正解→①は、教育を通じてがあやしいと気づいてほしい②信仰に応じてが✖平等だよ！③正しい④客観的真理を追究するのは理性で✖

2004 追試—倫理 パスカルの思想

パスカルが人間をどのように捉えていたかについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間は、天使でも鳥獣でもなく、偉大と悲惨の両極の間を揺れ動く、無とすべてとの中間者である。
- ② 人間は、「考える葦」として思考を通して宇宙を包み込む偉大な存在であり、自然の支配者である。
- ③ 人間は、身体・精神・愛という三つの秩序をもち、弁証法的な思考の力によって自己の限界を超えることができる。
- ④ 人間は、自己の悲惨さから神の愛によって救われるために、神から与えられた職業を全うする。

正解→①パスカルの「中間者」の説明、②宇宙を包み込む偉大な存在・自然の支配者が✖③弁証法ときたらヘーゲル④これはルターやカルヴァンで✖ 正解→①

2013 本試 デカルトの言葉

デカルトの言葉として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間の知識と力は合一する。
- ② 事物を永遠の相のもとに観想する。
- ③ この宇宙の沈黙は私を震撼させる。
- ④ 良識はこの世で最も平等に分配されている。

正解→②

2018 追試 倫理・政経 ライブニッツの思想

実体について考察したライブニッツの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 実体とは不滅の原子のことであり、世界は原子の機械的な運動によって成り立っていると考えた。
- ② 存在することは知覚されることであるとして、物体の実体性を否定し、知覚する精神だけが実在すると考えた。
- ③ 世界は分割不可能な無数の精神的実体から成り立っており、それらの間にはあらかじめ調和が成り立っていると考えた。
- ④ 精神と物体の両方を実体とし、精神の本性は思考であり、物体の本性は延長であると考えた。

正解→①。②はバークリー。④はデカルト。③は神の予定調和説。

2019 追試 倫理・政経 ホッブズとロックの思想

社会契約説を唱えたホッブズとロックの思想として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ホッブズによれば、人間は自然状態では、自己保存の欲求に基づいて自由に行動するので、互いに狼のように争ってしまう。そこで互いの安全を図るために契約を結ぶ必要がある。
- ② ロックによれば、人間は、他人を思いやる良心をそなえているので、内的制裁によって利己的な行為を抑えるものである。しかし、それだけでは自然権の保障は確実でないため、社会契約を結ばねばならない。
- ③ ホッブズによれば、自然権を譲渡された個人ないし合議体は、リヴァイアサンのような強大な権力をもつべきである。そして、人民はこの権力に服従しなければならない。
- ④ ロックによれば、最高権力である主権はあくまでも人民にある。それに対し、政府の役割とは、もともと人民のもつ、生命や財産などの権利を保障することである。

正解→②が間違い。ロックに良心というキーワードはない。